

# 諏訪・岡谷地方の経済概況速報

平成18年7月

(平成18年6月末調査)

平成18年7月14日

長野県岡谷市郷田二丁目1番8号

**諏訪信用金庫  
経営相談室**

電話 0266(23)4567(代)

FAX 0266(23)8044

		実 数	前年同期比
有効求人倍率 【5月】	諏訪公共職業安定所管内	1.20 倍	0.0 ポイント
	岡谷公共職業安定所管内	1.29 倍	0.13 ポイント
手形交換高【6月】 (諏訪手形交換所扱)	枚 数	12,486 枚	7.1 %
	金 額	15,669 百万円	397 百万円
うち不渡り発生状況	枚 数	1 枚	23 枚
	金 額	140 千円	10,722 千円
車庫証明取扱件数【6月】 (諏訪・岡谷家用自動車協会管内)		1,238 件	15.4 %
新設住宅着工件数(18年4月~5月) (諏訪地方事務所管内)		399 件	11 戸

## 概 況

### 地域の製造業

輸送用機械・産業機械関連企業は引き続き高水準の生産を続け、情報機器やプリント基板など順調な受注状況の企業がみられる。携帯電話や金型など一部に受注が減少した企業もみられるが、諏訪地域製造業の多くは前月に続き安定した生産状況が続いている。

自動車関連下請企業の受注は、大型連休の反動から受注量が前月比増加したところもみられ高水準で安定している。

省力化機械、自動化機械、専用機や検査装置など設備関連企業の受注は高水準の企業が多くみられるが、地元企業からの受注が減少したため、地域外の受注が増えたところもみられる。工作機械は海外出荷を含め引き続き順調な生産が続いている。

地域製造業の一部に受注が減少した企業や生産量が減少したメーカーもみられ、下請け企業の中には原材料の高騰が受注単価に反映されずに収益性に課題を抱える企業が多くみられるが、受注動向や雇用状況から地域製造業全体としては、安定した景況が続いている。

### 商業

昨年より1日遅れて6月9日に梅雨入り宣言が出された。降雨量は平年を大幅に下回ったものの曇天の日が多く週末は周期的に雨の日が多かった。初旬に寒気が入り夏物衣料は出端をくじかれた格好となり、後半高温の日が続いたものの商業活動は幾分低調だった模様。

衣料品は、月間平均気温が平年を上回ったものの昨年爆発的に伸びたクールビズ商品はカットソーシャツの売れ行きが低調で、夏物婦人衣料など衣料品の売り上げは前年を割り込んだ模様。

食料品は天候の影響から野菜の産地が日照不足となり野菜が品薄で価格が高騰し、生鮮3品の

売り上げは幾分低調であった。

大型家電店は、大型薄型TVやDVDレコーダーがワールドカップを前に売り上げを伸ばしたほかTVの買い替え需要が順調でしばらく堅調な売れ行きが続くとみられる。

ホームセンターは、季節の生活雑貨など順調な売れ行きをみせた。

## 観光

6月は例年梅雨の季節で低調となっている。今年は降雨量が少なかったものの週末に天候が崩れたことから高原への入り込みが低調であった。宿泊客数は、昨年が愛知万覧の影響を受け低調であったが、6月は例年並みに戻ったところが多くみられた。

上諏訪の旅館・ホテルは区々となっているが大手ホテルの中には団体客受け入れにより宿泊客を伸ばしたところもありインターネット予約客など含め総体では前年を上回った模様。

蓼科・白樺湖・車山方面の宿泊客は、旅館ホテルにより増加、減少区々となっており総体では前年を幾分割り込んだ模様。日帰り客は週末の天候に恵まれず幾分減少し観光施設の利用も若干低調だった。

下諏訪温泉の宿泊客は例年を上回ったところもみられたが、総体では平年並みとなっている。

諏訪大社の参拝者は53千人で前年を6千人程度上回った。東南アジアからの観光客が多くみられた。

## 建設業

市町村の6月の発注工事は、1,167百万円で前年同月比264百万円増加した。地元企業への県発注工事は143百万円で、前年同月比148百万円減少した。県・市町村合わせた6月の公共工事の地元企業受注額は、1,310百万円で前年同月比116百万円増加した。

民間工事は5月の新設住宅着工件数が265戸で前年同月比43戸増加した。18年4月～18年5月の累計着工戸数は399戸で、前年同期の累計着工戸数に比べ11戸増加した。建築工事は、工場建設や耐震工事などが増加しており個人住宅やりホームなど予定の受注量を確保したところもみられるが、土木工事は依然低調となっている。

## 雇用

5月の有効求人倍率は、諏訪公共職業安定所1.20倍、岡谷公共職業安定所1.29倍で、諏訪地域の有効求人倍率は1.24倍と長野県の1.19倍を上回っている。諏訪職安と岡谷職安を合わせた5月の新規求人(全数)は1,375人で、前月より121人減少した。製造業からの新規求人は356人で諏訪職安管内は前月より115人減少し、岡谷職安管内は87人の増加となっている。地域の有効求人倍率は平成15年10月以降32ヶ月連続して1倍を上回っている。

当金庫から見た需資動向に大きな変化はみられない。

## 業種別動向

### 1. 電気機器

プリント基板

携帯電話、パソコン、デジタル家電などの基板は高水準の生産が続いており、受注は幾分増加している。

コンデンサー

フィルムコンデンサーの受注は横ばいとなっている。

プリンター

下請け企業の受注状況は区々となっており、大型プリンターは順調に推移している。

コンダクター・リレー

受注は安定しており堅調な生産が続いている。

### 2. 輸送用機械

自動車

国内メーカーは安定した生産を続けており、下請け企業の受注は総体では高水準となっているが部品により減少したところもみられる。海外出荷の二輪車部品の受注は弱含みとなっている。

ピストンリング・

シリンダーライナー

メーカーは順調な生産を続けているが、下請け企業の受注は幾分弱含みとなっている。

船外機

輸出が順調で外注企業の受注は安定している。

### 3. 一般機械

工作機械

自動車部品やO A部品の加工機械は引続き堅調な生産を続けている。

専用機・省力機器

専用機械、省力化機械など産業機械の受注は安定しており高水準の生産を続けている。地域内企業からの受注が減少したところもみられる。

搬送用機械

デジタル家電企業や食品企業などの受注によりフル稼働の生産が続いている。

金型

情報機器や音響機器の金型受注は機種により増減区々となっている。当面の受注が減少したところもあり、総体でも減少している。

アルミダイキャスト

自動車部品や電源機部品など高水準の生産を続けているところがみられる。受注状況は総じて増加している。

### 4. カメラ・レンズ

デジタルカメラ

デジタルカメラの5月の生産台数は621万台で前月比2.4%の増、前年同月比29.7%の増加となっている。5月の出荷台数は国内出荷69万台、輸出567万台で出荷台数全体では前月比4.1%の増、前年同月比36.6%の増となっている。(カメラ映像機器工業会)

海外生産が主流となっており、地域の下請け企業の受注状況は区々となっている。高級1眼レフの金属加工の受注が大幅に増加し、地域の下請け企業の生産状況は引き続き高水準となっている。

プロジェクター

メーカー各社の海外生産比率が高まり、下請け企業の受注は減少しており前年同期比では大幅に減少している。

レンズ

ガラスレンズの生産は海外が主体となっている。下請け企業の中には受注が幾分増加した企業がみられるが、国内のガラスレンズの生産量は減少しており総体でも減少傾向となっている。

5. 繊維  
ニ ッ ト 気温の変化が激しく専門店の売れ行きは低調となっており、秋物ニットの生産時期を迎えているが、地域のニットメーカーの受注は例年を割り込んでいる。
6. 食品  
寒 天 受注、出荷ともに堅調に推移しており落ち着いた動きとなっている。  
味 噌 需要が幾分減少しており出荷は横ばいとなっている。
7. 製 材  
諏訪地域の5月の木造住宅着工件数は136戸で前月比12戸増加した。木材の動きが依然として鈍い中、原油高騰による輸送コスト高の影響などから建材は前年比2割程度値上がりしている。
8. 建 設  
公 共 工 事 6月に地元業者が受注した県関係公共工事は、発注機関別では、諏訪建設事務所6件、林道治山工事関係5件・土地改良工事など3件、合せて14件、契約金額143百万円となっている。18年4月～18年6月の累計契約額は188百万円で前年6月累計比 148百万円の減。市町村発注工事は、建築工事16件134百万円、土木工事・下水道工事など102件813百万円、その他工事30件220百万円で合計148件1,167百万円と前年6月に比べ264百万円増加した。
- 民 間 工 事 5月の新設住宅着工件数は265戸で、前年5月比43戸増加した。建築工事は工場建設や耐震工事などに動きが見られるが、土木工事は低調に推移している。
9. 商 業  
6月9日に「梅雨入り宣言」が出たものの、降雨量は平年を大幅に下回った。曇天の日が多く週末は周期的に雨の日が多かった。初旬に寒気が入り夏物婦人衣料は出端をくじかれた格好となり、後半高温の日が続いたものの衣料品は幾分低調だった。
- 大型薄型TVやDVDレコーダーなどは好調な売れ行きをみせ、季節の生活雑貨など順調な売れ行きの商品もみられたが期待の「クールビズ」商品の売れ行きは幾分低調で食料品などの動きとあわせ消費は幾分低調となった模様。
- 衣 料 天候に恵まれず衣料品の売れ行きは低調だったがポロシャツなどに動きがみられた。父の日セールでは作務衣や甚平が売れ筋となった。下旬には浴衣などが売れており梅雨明けの本格的夏シーズンに期待がもたれている。
- 食 料 品 野菜は日照不足などで品薄から価格が高騰したため、来店客数に変化はみられないが生鮮3品の売れ行きは幾分低調だったとの店舗が多くみられた。
- 電 気 機 器 薄型大型TVは堅調な売れ行きをみせ、DVDレコーダーなどワールドカップを前に売れ行きを伸ばした。TV買い替え需要が出ており当面堅調な売れ行きが見込まれている。

自動車	諏訪・岡谷を合わせた6月の車庫証明件数(軽自動車除く)は1,463台で、前月比88台増加した。前年同月比では225台(15.4%)減少しており、好調な軽自動車に押され、普通乗用車の売れ行きは幾分低調となっている。
ホームセンター	ホームセンターの新規開店があり競争が激化している中、季節の生活雑貨や専門工具など順調な売れ行きをみせている。
デパート	初旬の寒気に出端をくじかれ婦人衣料品などが、幾分低調だったものの、紳士服、子供服は前年比売り上げを伸ばした模様。

## 10. 観光

6月は例年梅雨の季節で低調となっている。降雨量は少なかったものの週末天候が崩れたことから高原への入り込みは低調であった。

宿泊客は、去年は愛知博覧会の影響から減少した。今年は、旅館・ホテルにより増加・減少区々となっている。前年同月比では、増加したところが多く例年に戻ったところが多くなっている。

上諏訪温泉 宿泊客は旅館・ホテルにより増加、減少区々となっている。大手ホテルの中には団体客受け入れにより宿泊客数を伸ばしたところもあり、インターネット予約客などの増加を含め総体では前年同月を10%程度上回った模様。

蓼科・白樺湖・車山 旅館・ホテルにより増加、減少区々となっているが、総体では前年を幾分割り込んだ模様。日帰り客は週末の天候に恵まれず前年比では幾分減少した模様。数年前から低価格戦略の旅館の参入があり、宿泊単価で苦慮するところもみられる。

下諏訪温泉 宿泊客は増加、減少区々となっており総体では平年並みとなっている。  
 諏訪大社 参拝客は53千人で前年を6千人上回った。東南アジアからの参拝客が多く見られた。

## 最近の長野県経済の動向

(2006年7月3日) 日本銀行松本支店

2006年5月の主要経済統計および企業ヒアリングを中心とした月例調査に加え、第129回全国企業短期経済観測調査(長野県分<別途公表>)の結果も併せて取りまとめ。

長野県経済は、緩やかで着実な回復が続いている。

足もとの最終需要の動向をみると、設備投資は、05年度下期実績が前年を上回った後、06年度上期も製造業を中心に前年を上回る計画となるなど、増加基調を維持している。輸出も、06年度輸出額が上期、下期ともに前年を上回る見通しにあり、緩やかに増加している。また、住宅投資は、市部を中心に増加基調にある。個人消費は、乗用車販売が弱めの動きとなっているが、家電製品が堅調な売れ行きを続けているほか、百貨店売上げが伸びを高めるなど、このところ底堅さを増している。一方、公共投資は、前年の災害復旧関連工事の反動から、前年を下回った。

以上のような最終需要のもとで、生産は、産業機械向けおよび自動車向けが高水準の生産を維持しているほか、IT関連財の生産も着実に回復している。また、企業収益は、05年度下期実績が急回復した後、06年度も上期、下期ともに大幅な増益計画となっている。この間、雇用面をみると、企業活動の活発化を映じて新規求人数が引き続き増加し、新規求職者数も減少したことから、有効求人倍率が引き続き上昇するなど、改善基調が続いている。一方、所得面は、一人当たり名目賃金が所定内給与および所定外給与の増加を受けて引き続き前年比プラスとなるなど、着実に改善している。

### 個別業界の動向

(生産)

半導体関連では、半導体素子が、デジタル家電向けを中心に、シリコンウエハも、自動車関連・デジタル家電向けを中心に、高水準の生産を続けている。この間、リードフレームは、生産水準を引き下げた。

電子部品では、コンデンサが、デジタル家電向けを中心に、抵抗器も、デジタル家電、携帯電話向けを中心に、高水準の生産を維持している。また、モーターは、生産水準を引き下げた。

情報機器では、県内生産分のパソコン(ノートブック型)は、新製品の投入もあって、生産水準を引き上げた。また、プリンターは、複合機タイプの販売堅調を背景に、横ばい圏内で推移している。一方、デジタルカメラは、海外生産の強化および販売の伸び悩みを受けて、生産は低調に推移している。

時計では、完成品が、海外生産シフトの影響から、基調としては低調な生産を続けている。また、ムーブメントは、価格競争の激化を受けて、生産水準を引き下げた。

自動車部品は、国内向けが販売台数の減少を受けて鈍化しているものの、引き続き海外向けが増加基調にあることから、全体として高水準の生産が続いている。

工作機械は、国内外の自動車向けや情報関連機器向けを中心に、高水準の生産を維持している。

計器は、国内の産業機械向けや半導体関連向けが低調であるほか、国内外の自動車向けが引き続き減少していることから、低水準の生産が続いている。

バルブは、ウェイトの高い国内外の産業機械向けおよび国内の住宅向けが好調を維持していることから、高水準の生産が続いている。

味噌の出荷は、横ばい圏内で推移している。

飲料は、緑茶飲料の需要が高水準で推移しているほか、コーヒー飲料の新商品や夏季商戦に向けたスポーツ飲料の受注が増加していることから、好調な生産となっている。

(個人消費)

県内大型小売店(百貨店、スーパー)売上高(当店調べ<店舗調整前>)をみると、衣料品は、クールビズ関連商品が堅調な売れ行きを示しているものの、婦人衣料を中心に引き続き前年割れとなった。一方、身の回り品は、ブランド・テナント出店効果等により婦人向け商品や時計・宝飾品などの高額商品が好調に推移したことから、食料品も一部店舗の改装効果等から、それぞれ前年比増加したため、全体では引き続き前年を上回った。

家電販売は、デジタル家電や白物家電が好調を維持しているほか、パソコンの売れ行きも安定しており、全体では堅調な販売が続いている。

自動車販売をみると、軽四輪が新型車投入効果等により増加した一方、ガソリン価格が高値で推移する中で、小型車および普通車が引き続き減少したことから、全体では再び前年割れとなった。